

19日, 20日……曇及雨,

21日(16時50分)……東縁南 40° にア1チ形の静止狀紅焰あり, 相當美事なものであつた。(第4圖)

22日, 23日……欠測.

24日(15時20分)……東縁南 5° の所に1ヶ, 西縁南 $40^\circ, 60^\circ, 80^\circ$ に各小紅焰あるのみ.

25日——28日……曇天及欠測(12日西没せる大黒點はこの間に再出現した模様で, 従つて, これに附隨した大紅焰も東縁出現は見る事が出来なかつた).

29日(9時20分)……東縁南 38° に静止狀の大紅焰が見られ, 非常に光輝強く, スリットを, 紅焰全形が見られる位幅廣くしても, 相當明瞭に認め得る位輝かしいもので, 恐らく明日も觀測し得る事と豫想される。(第5圖)

30日……豫想通り, 昨日の大紅焰は殆んど同じ位置(但し太陽赤道の南傾せる爲, 稍南へ寄る)に見られた. 本日は快晴の爲, この大紅焰の光輝一しほ明るい. 但し静止狀である爲, 形狀に大差はない. 午後も大差を認めず。(第6圖) 今1つ, 西縁南 18° の位置に, 上述のものに比し, 光輝はグツと弱いが, 奇妙なア1チ形の噴出狀紅焰あり, 短時間の變形を豫想して數回に渉り連續觀測を行ふ.

(9時15分)……典型的なア1チ型. 基部2本.

(13時15分)……上部は干切れて南方へ飛び, 且, 上方へ擴がる. 彩層とは絶縁。(第7圖)

(14時25分)……最早や紅焰らしき物を認めず, 完全に消失す.

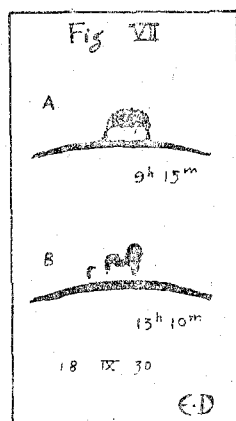
西縁北 45° に小紅焰あり。(以上)

補註 1) 位置角は, 太陽角經緯度圖を使用して修正済の値なり.

2) 視相劣惡なる場合は紅焰の正しき形狀を捕捉し難く, 觀測を中絶せる場合あり.

3) 淡雲(巻雲, 巻層雲の如き)蔽ひたる場合, 紅焰非常に見難くなり, 従つて淡光の紅焰及小型の紅焰は消失する懼れあり.

4) 紅焰は, 近來 Pettit により, 活動性, 噴出狀, 黒點型, 龍卷性, 静止狀の5種類に細別され. 尙今一層細分類されんとしてゐるが, 筆者は, 當分紅焰觀測に熟達する迄, 従前通り, 噴出狀, 静止狀の2種類を使用するものとす. —18—9—30—



新彗星の發見 年末, コペンハーゲンからの電報によれば, 米國オハヨ州のアマチュア天文家ベルテヤは, 水瓶座に一新彗星を發見した由. 十二月17日の概略位置は, 赤經 $23^h 20^m$, 赤緯 -16° で, 西北へ徐行してゐる. 光度は7級. 詳細は本會急報を見られよ. (1943—12—21)